

短所こそ調和の必需品

「美容整形した芸能人を一〇〇%見抜ける」

自信たっぷり、そう言い切る女性がいる。私が時々顔を出す和食屋の女将である。「どんなに手術がうまくいっても、笑った時の目じりでわかるんです。年齢に似合わない、不自然なシワが出てくるんですよ」

ある日、そんな言葉を思い出してテレビを見ていたら「なるほど」と合点した。今までは、ただ「最近、きれいになったな」くらいで素通りしていたが、目じりに注目してみると、確かに不自然なシワを見つけられる。本人に確認するわけにはいかないが、女将が知っていることは間違っていないと確信するようになった。ただし、目の整形にかぎるという「ただし書き」はつくのだが。

ただ私は、一概に美容整形する人を批判するのではない。女性であれ、男性であれ、美しさや若さをいつまでも保ちたいと思う気持ちはわかる。もっと美しくなりたいという気持ちもわかる。その手段として、美容整形手術を選ぶ人がいることをとやかくいうつもりもない。それによって、本人が不満やコンプレックスから解放されるのであれば、結構な話だ。

しかし、である。

「なぜ、この人は美容整形をしてしまったのだろうか」

テレビを見てみると、そんな思いにかられることがある。なぜなら、私が見たところ、その女性が本来持っていた美しさを整形によって台無しにしてしまうケースが少なくないからだ。その対象となるのは芸能界にあっても、美しさではトップレベルの女性たちである。傍から見れば、欠点など見当たらないのだが、当の本人にしてみれば「我慢できない部分＝短所」があったのだろう。

そんな本人の思いとは裏腹に、視聴者は「ああ、きれいになってよかったね」とい